

第50回症例検討会 case71

「新型コロナ後遺症諸症状に対する鍼灸治療の1症例」

2025年10月6日(月)20:00～

清明院 永井由梨 竹下有

【患者情報①】

患者：50代 女性 154cm 54kg BMI 22.77

主訴：top不眠、胃酸逆流、全身倦怠感

医師の診断名：コロナ後遺症

ADL：屋内では伝い歩き、外出時は車いす。

初診日：X年8月

【患者情報②】

【家族歴】 父、姉：糖尿病、母：慢性疲労症候群

【既往症】

- ・ 17歳頃:円形脱毛症
- ・ 24歳:ストレス性胃炎
- ・ 45歳:更年期障害
- ・ **53歳:新型コロナウイルス感染症**

(※ワクチン歴：3回全てモデルナ社、X-1年6月7月、X年2月。

3回とも副反応あり、発熱38℃、悪心、倦怠感)

- ・ 53歳:上咽頭炎、逆流性食道炎
- ・ 54歳:帯状疱疹、右眼飛蚊症

【患者情報③】

【出産歴】 2回 27歳吸引分娩にて男児出産、31歳時帝王切開にて男児出産。産後の体調良好。

【医療機関】 2か月に一度、コロナ後遺症外来のオンライン診療受診。

【内服薬】 服薬情報参照

【サプリ類】 アミノバイタルアクティブファイン 1～3回/日。

倦怠感に対して服用、効果あり。

かかりつけ病院のHPで知り購入。

引用：『アミノバイタルアクティブファイン』味の素株式会社
『新型コロナ感染症・後遺症の記事』ヒラハタクリニック



【服薬情報】

- ・ **リーゼ錠5mg**（不眠に対して） 1日1回1/4錠
- ・ **ザジテンカプセル1mg**（不眠に対して） 1日1回1錠
- ・ **ミヤBM錠**（便秘に対して） 1日1～2回2錠

👉 不眠に対する処方薬2種は、服用前は覚醒し1日一睡もできない日が週2-3あったが、服用後は毎日1-2時間は眠れるようになる。

👉 便秘薬服用前は1回/2-3日、服用後は1-3回/日。

【生活歴①】

- ・ **飲食** 3食/日、偏りなし。炭水化物は少なめ。
朝昼は宅配弁当、夜は総菜あるいは夫が作る。
間食はクラッカー、クッキー、カロリーメイト、のど飴。
食事は1400kcal/日におさめている。
水分摂取量：約800ml/日、内容はノンカフェインのお茶
(ルイボスティー、黒豆茶など)

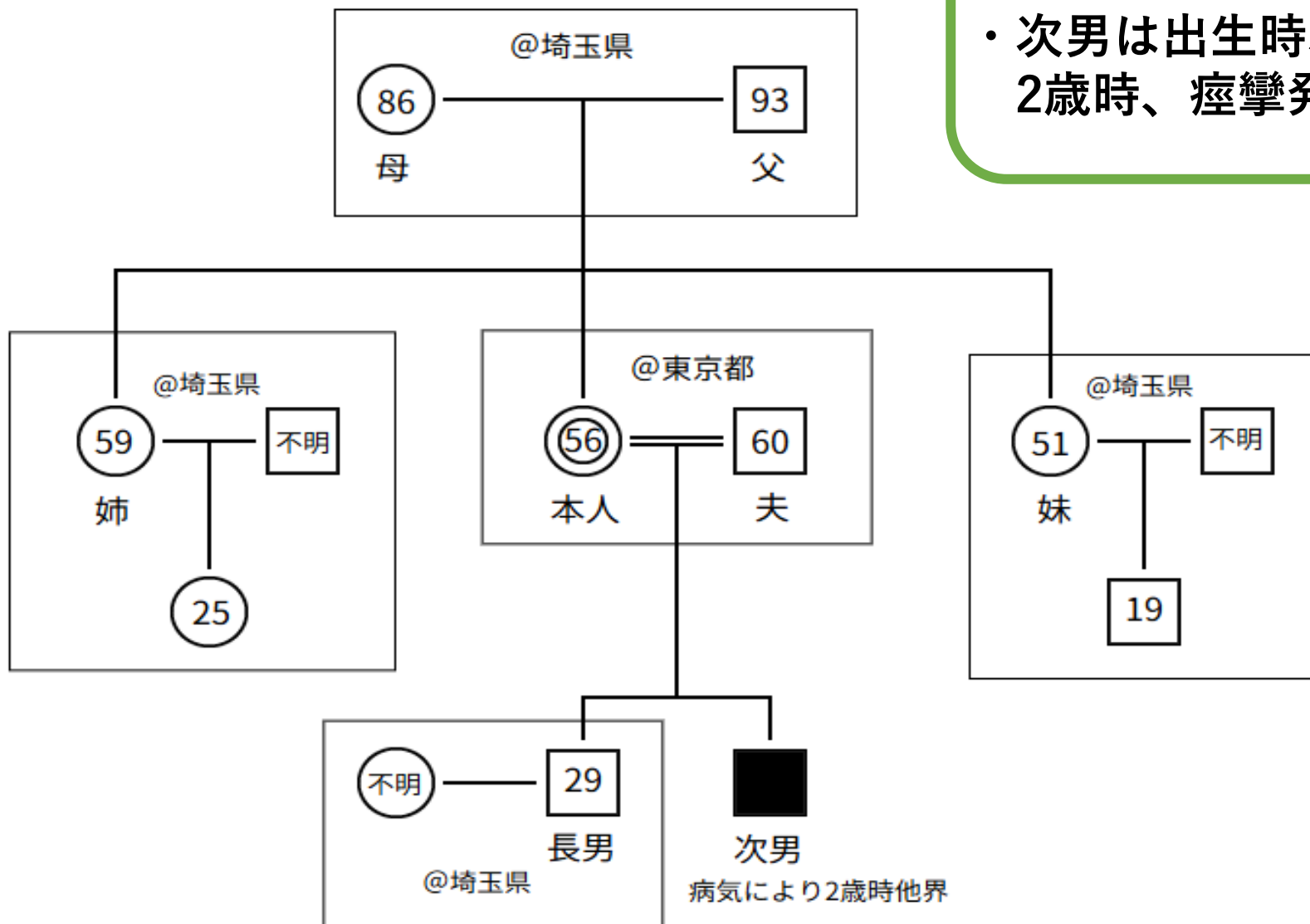
20代～甘味(ケーキ、チョコレートなどの洋菓子)とコーヒー
(ホット、ブラック、砂糖ミルク無し500～600ml)で気分が
落ち着くため毎日摂取。 コロナ感染～主訴悪化のためほぼ無し。

【生活歴②】

- ・ **アルコール** 元々なし。
- ・ **運動習慣** 幼少～運動嫌いのため無し。
学生時代の部活は合唱部、帰宅部。
- ・ **生活環境** 夫と2人暮らし、一人息子は6年前大学卒業後に実家を出て、
X年8月に結婚し埼玉在住、孫無し。
夫、息子との関係は良好。

【ジェノグラム】

- ・ 両親、妹、姉、長男は埼玉在住
- ・ 両親は健康で介護不要
- ・ 次男は出生時、二分脊椎症、水頭症と診断
2歳時、痙攣発作で死亡



【現病歴①】

〈幼少～主訴発症前まで〉

神経質で完璧主義、イライラしやすく、考え事が多い。
くよくよ引きずりやすいタイプ。

勉強、仕事など**過集中**しやすく、その日にやり遂げないと
気が済まない。

偏食なし、**緊張で便秘傾向**、睡眠問題なし。

【現病歴②】

〈27歳〉 不眠発症 vas2-3

第一子妊娠中、妊娠7週目～悪阻がきつく1日中、常に悪心。
食後に嘔吐すると楽になっていた。
悪心により入眠困難。30分～1時間で寝付く。熟睡感無し。
当時不眠に対して治療無し。

体重は出産までに徐々に4-5kg減、52kg→47kg

出産後もvas不変、体重は徐々に戻る。
産後は子供の夜泣きで中途覚醒し、細切れの睡眠。

【現病歴③】

〈31歳〉 vas2-3

第二子妊娠、出産時も第一子の時と同様に悪阻が酷い。

出生時二分脊椎症、水頭症が判明。

長男と病気の子供の子育てに精一杯のため当時の記憶があまりない。

〈33歳〉 vas2-3

次男、痙攣発作を起こし他界。

覚悟していたが精神的ショックが大きく、毎日夜中3時まで眠れない日が続く。この時期も不眠に対して治療は無し。

当時のことは話しにくいとのこと、詳細不明。

【現病歴④】

〈45歳〉 vas5

息子が高校生になり週2-3回事務職のパート勤務を開始。

5時間程度のデスクワーク業務による**眼精疲労**あり。

仕事後ホッとし、帰宅後必ずブラックコーヒー+洋菓子を摂取するようになる。

ある日突然、

ホットフラッシュ、煩悶感、漠然とした不安、心配が出現。

不眠症状も悪化し婦人科を受診する。**更年期障害**と診断される。

【現病歴⑤】

〈45歳〉

◆更年期障害の治療内容

- (1)漢方薬(当帰芍薬散)を2-3週間服用、胃痛出現により服用中止。
 - (2)ホルモン補充療法(メノエイドコンビパッチ)へ切り替わる。
2週間後に腹張が認められ不安感が増強し中止。
 - (3)低用量ピル(内容不明)へ変更。
服用2-3週間後、落ち込み、悪心が出現したため中止。
- ☞この頃には更年期症状が軽減し、医師より治療不要なレベルとの判断のもと治療終了。
- 更年期障害治療により不眠症状はvas5→2-3へ軽減。

【現病歴⑥】

〈51歳〉 vas2-3

閉経。

閉経後1-2年は条件不明だが、時折ホットフラッシュを感じていた気がする。

不眠症状については閉経前、更年期障害時は毎日不安感、焦燥感により、1時間寝付けない、盗汗で中途覚醒し、熟睡感なし。

更年期障害治療により不眠症状は週1-2回程度に軽減。

閉経後不眠症状、身体症状、生活状況に大きな変化なく、
閉経の影響は受けていない。

【現病歴⑦】

〈53歳〉 X-3年8月初旬 vas6

新型コロナウイルス感染症陽性

夫が先に罹患し数日後、症状出現。

悪寒、喉痛、発熱(37℃)、倦怠感、ブレインフォグ、息苦しさ、抑うつ、入眠困難。

罹患当時は身体症状がきつく1-2時間寝付けない。

症状は様々あるが、家事などの活動はできていたため軽症だと感じていた。

カロナール、トランサミン、小青竜湯で症状緩解。(服用量不明)

喉痛、喉の違和感、倦怠感が残る。

【現病歴⑧】

〈53歳〉 X-3年8月～9月 vas6-7

自宅隔離終了後、3週間ぶりに仕事復帰。

気晴らしになるが肉体疲労↑倦怠感↑

入眠困難、中途覚醒、覚醒時動悸、多夢。

数日勤務後ベッドから起き上がれず1日ほぼ寝たきり状態になり、

パートを退職。歩行状態は屋内では伝い歩き、外出時車いすとなる。

食事はお粥、うどん、ゼリー。便秘気味。

倦怠感が酷く、ベッドから動けないためシャワー週2回。

シャワー後の疲労感、火照り、息切れが強い。

【現病歴⑨】

〈53歳〉 X-3年10月 vas3-4

気候的に涼しくなり徐々に倦怠感、不眠症状が軽減。
生活状況、食事内容や量は8月頃コロナ感染時から変わらず、
お粥、うどんなど。

精神的肉体的負荷がかかるような出来事も無し。

日中の活動時間が増え、外出可能になる。

シャワー毎日。シャワー後の疲労感、けだるさあり。

食事は宅配サービスを利用開始。軟便傾向。

上咽頭炎、逆流性食道炎を発症。

【現病歴⑩】

〈54歳〉 X-2年 9月～10月 vas3

生活上大きな変化、食生活も無し。

带状疱疹発症。服薬治療行うが神経痛が残り、鍼灸治療で改善。

鍼灸治療で主訴(不眠、胃酸逆流、全身倦怠感)は不変。

半年通院し、神経痛が改善したため、通院中止

右眼飛蚊症発症。**両眼緑内障疑い**と指摘される。

自覚症状なく、眼圧は16mmHgで正常値だが、視野検査で

視野欠損が認められたため。半年に1度経過観察にて異常なし。

【現病歴⑪】

〈55歳〉 X-1年3月 vas10

父親から会社を継いでほしいと頼まれる。

現在の身体状況では厳しいため断り、父親が妹に頼むも拒否。
父親から再度頼まれ、継げない状況を説明するも一切理解
されず、父親、妹、姉と揉める。

父、妹、姉への罪悪感により不安感、焦燥感に苛まれる。

また父親、妹から毎日電話やラインが来ることに対し

怒りが募る。ADLも悪化し、X-3年9月同様の歩行状態となる。

【現病歴⑫】

イライラ、焦燥感、盗汗により中途覚醒4-5回/日。

動悸なし、夢は時々。

1度目覚めると上半身の火照りと頸肩背部の過緊張により、
眠れないため水風呂に浸かり、熱を冷ましてから眠るよう
になる。

それでも寝付くまで布団の中でじっとしてられないこともあり、寝室からリビングへ移動し、テレビを見たり家事をして眠くなるのを待つようになる。

【現病歴⑬】

〈55歳〉 X-1年10月 vas6-7

父親の会社は夫が引き継ぐことになり一段落したが、妹とは今回の件で現在まで疎遠になる。

中途覚醒回数は波があり、多いと4-5回、少ないと2-3回。

覚醒時のイライラ、焦燥感、盗汗は徐々に改善した。

水風呂に浸かったり、夜中にテレビを見たり、家事をし始めたりすることなくなる。

【現病歴⑭】

〈55歳〉 X-1年10月 vas6-7

本人より清明院へ往診依頼メールが届くも後日、
本人から主治医に相談したところ、

「あまりにも過敏な状態なので、主治医より今はとても
鍼は無理だと言われました。

体調が落ち着いたらまた相談します。」

と連絡があり、やり取りは終了。

【現病歴⑮】

〈56歳〉 X年7月 vas4-5

本人から再度連絡があり、異常過敏が落ち着いてきた
とのことで往診依頼あり、主治医からも許可が下り、
「**鍼灸は相性もあるけどやってみると良いよ**」
と言われたため、8月初診治療。

【初診時の東洋医学的情報】

O(objective) 客観的情報

A(assessment) 評価

飲食:スライド7参照

大便:2-3回/日、軟便、便器つかない、臭いあり、残便感無し。

小便:6-8回/日、淡黄色、尿勢・尿切やや悪い、残尿感なし、
夜間尿無し。

睡眠:8時間/日、熟睡感無し、寝つき寝起き悪く、寝付くまでに
1時間以上。夢は時々。

中途覚醒(1時間おきにイライラや火照りのため)

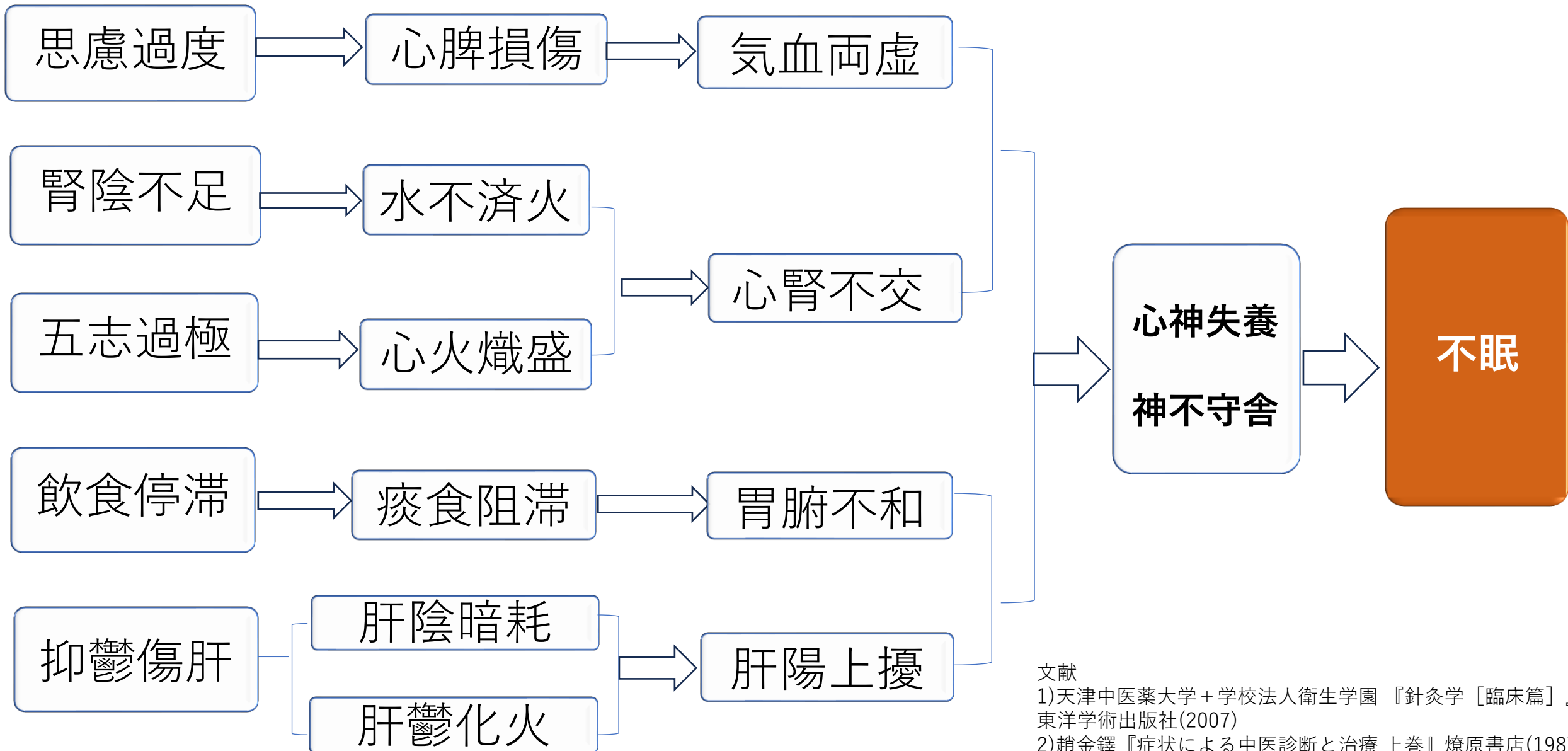
脈診:沈、滑、脈力・脈幅・重按有り

舌診:形:歯根舌、色:舌背、舌腹共に紅、舌苔:薄白苔

腹診:脇腹過緊張(右>左)、胸脇苦満(右>左)、左少腹急結

【不眠の東洋医学的見解】

不寝(不眠・失眠)とは常に睡眠が足りないこと。



【不眠の西洋医学的見解】

不眠症

睡眠を適切なタイミングと環境でとっているにも関わらず、夜間に入眠困難、睡眠維持困難、熟眠障害、早朝覚醒などの夜間不眠が存在し、不眠が過度の日中の眠気など日中の様々な機能障害をもたらすことにより、QOLの低下が生じている状態。

原因

①心理的

②身体的

③薬理学的

④精神医学的

⑤生理学的

⑥原発性

治療法

①非薬物療法

②薬物療法

文献

- 1) 米国睡眠医学会『睡眠障害国際分類第2版 診断とコードの手引』医学書院(2010)
- 2) 古池保雄『基礎からの睡眠医学』名古屋大学出版会(2010)
- 3) 大熊輝雄『改訂版やさしい睡眠障害の自己管理』医療ジャーナル社(2009)
- 4) 内田直『好きになる睡眠医学第2版』講談社(2013)

【初診時の診断・配穴・養生指導】

弁証：心肝気鬱＞腎虚

八綱弁証：裏・熱・実＞虚

流派：北辰会方式

初診時の配穴：左胃兪 瀉法 いっしん社製奇経鍼 3番7分置鍼

養生指導：油膩物、甘味、カフェインを避ける。

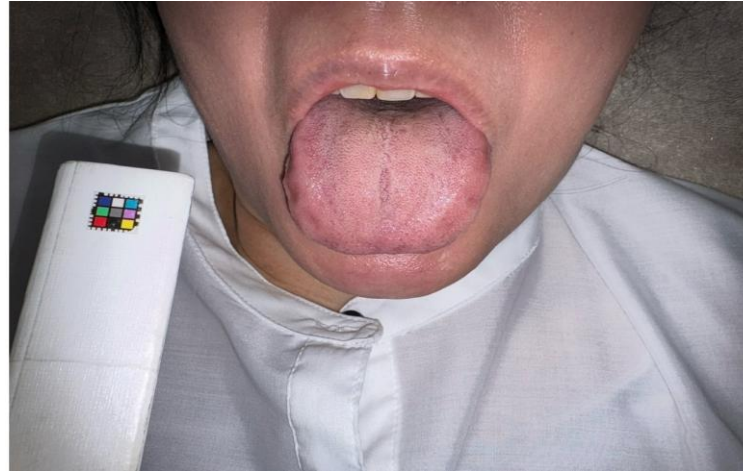
調子が良いときでも食べ過ぎない。

読書、動画鑑賞、スマホ操作、ストレッチを行う際は意識的に休憩時間を設け、過集中しすぎないように注意する。

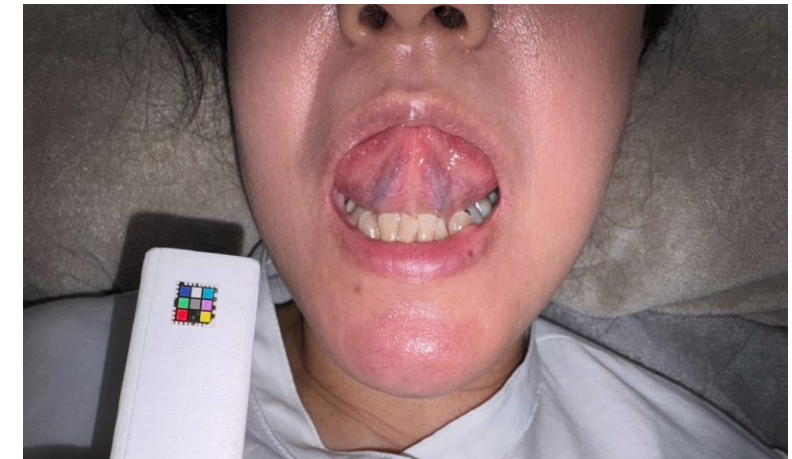
【X年8月初診時の治療前後の体表所見】

(初診時の配穴は左胃兪)

治療前



治療後



【経過中の主な治療内容】

流派：北辰会方式

配穴：胃兪、肝兪、照海など。

※状況に応じて瀉法中心に補瀉法を施す。

処置内容：鍼のみ、1回の治療で使用する経穴は1穴～2穴

得気：有

通電：無

頻度：週2回(永井他女性1名で担当)、治療時間は30分程度

【治療経過①】

・ X年8月中旬 2診目

前回治療後3～4日は活動時の息切れ、息苦しさを感ぜずに生活可能。

身体が軽く、ベッドや椅子からの立ち上がり始めが楽になる。
伝い歩きの頻度減少し、支えなく立位保持が可能になる。

睡眠は、寝付き時間短縮し1-2時間→30分～1時間。

中途覚醒回数6-7回→3-4回。2-3時間まとまって眠れるようになる。

治療直後全身倦怠感**10段階中7～8**

【治療経過②】

・ X+1年8月中旬 3診目

歩行での息切れ、息苦しさ無し。

常に感じていた胃酸逆流が食後以外はなくなる。
のどのイガイガ、詰まりも感じず、のど飴を舐めずに過ごせるようになる。

睡眠は2診目から大きな変化なし。
治療直後全身倦怠感**10段階中7～8**

【治療経過③】

・ X年8月下旬 4診目

活動後の全身倦怠感と食後の胃酸逆流の程度が軽減。
空腹感が増し、1食量・間食量がやや増える。

食事量が増えると寝つきが悪く、イライラ・火照りでの中途覚醒回数が増え(5-6回)、覚醒後の寝つきが悪い。

◆食事の養生指導を行う。

👉 食事量を通常量に戻していただく、間食でクラッカーや甘味を2～3枚→1枚へしていただく、早食いをせずよく噛んで食べる、胃腸を労わるようにしていただく。

治療直後全身倦怠感**10段階中7～8**

【治療経過④】

・ X年9月初旬 5診目

食事量・間食量を元に戻し、不眠症状改善。

就寝時、上半身の過緊張が緩和しリラックス状態で布団に入って居られるようになる。

起床時の頸肩背部の鉛のような重さが軽減。

尿勢・尿切れが改善し、両下腿の浮腫軽減。

治療直後全身倦怠感**10段階中7**

【治療経過⑤】

- ・ X年9月初旬 6診目

シャワー後疲労感、火照りなくなる。

治療直後全身倦怠感**10段階中7**

- ・ X年9月初旬 7診目

久しぶりに父親から仕事関係の連絡があったが動揺せず対応する。
以前なら主訴悪化する状況だが、悪化しなかったことに本人が驚く。

治療直後全身倦怠感**10段階中7**

【治療経過⑥】

・ X年9月中旬 8診目

30分で寝つけるようになる。中途覚醒は3-4回で不変。

覚醒後30分以内に寝付く。熟睡感あり。

読書、動画鑑賞など目を使い、集中する作業が1時間可能になる。

その後の疲労感無し。表情が明るくなる。

治療直後全身倦怠感**10段階中6-7**

・ X年9月中旬 9診目

8診目から横ばい

治療直後全身倦怠感**10段階中6-7**

【治療経過⑦】

・ X年9月中旬 10診目

起床時～日中の倦怠感が軽減。

活動意欲が高まり、前向きな発言が増える。

胃酸逆流、喉のイガイガ、詰まり感が食後もほぼ無くなる。

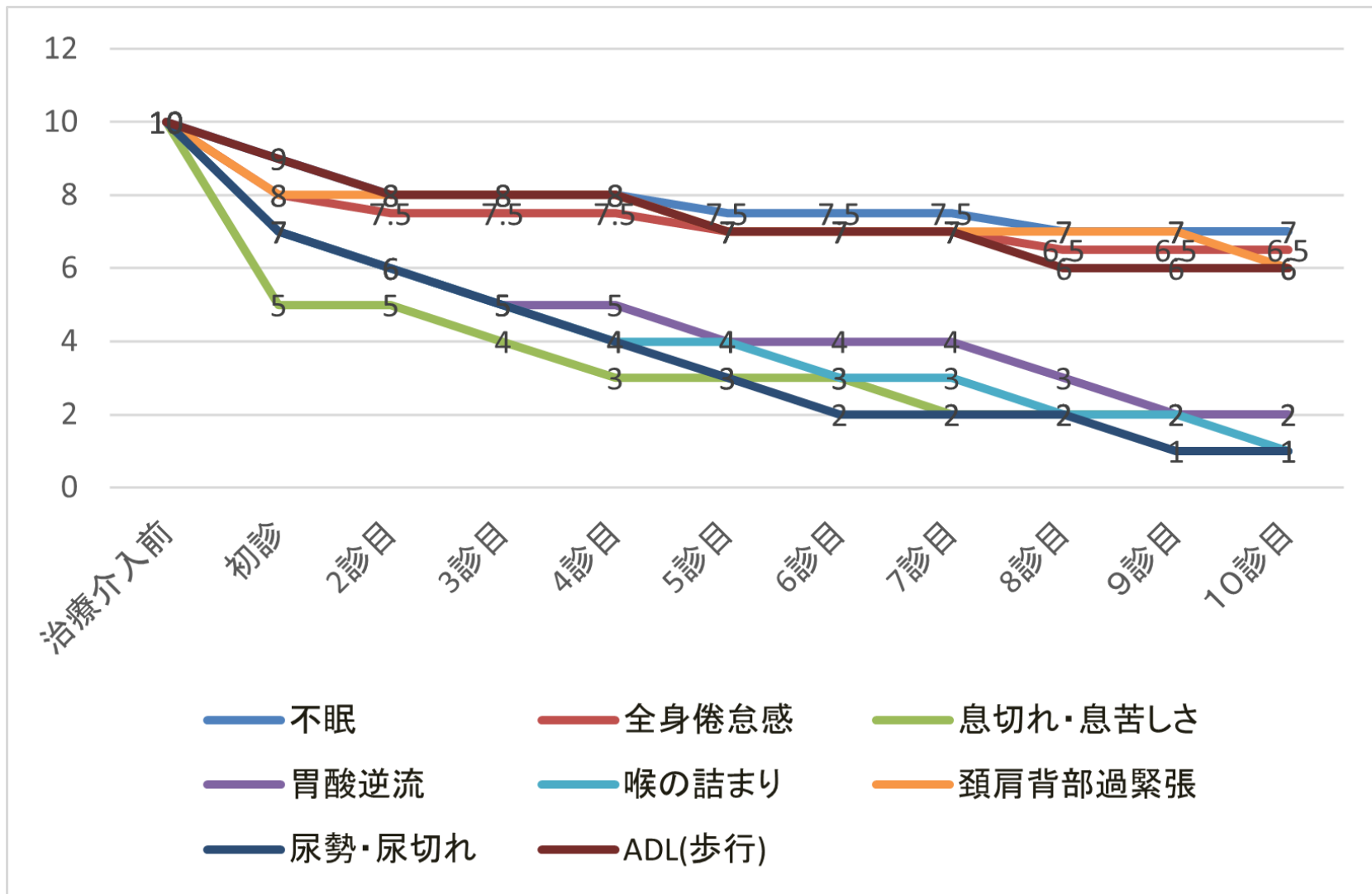
寝付き時間、中途覚醒回数は8診目から横ばい。

就寝時の過緊張、起床時の頸肩背部の重さは5診目より軽減

治療直後全身倦怠感**10段階中6～7**

【主訴とその他症状経過グラフ】

P(plan) 治療計画



【考察】

- ・ 初診治療直後から、良性の変化を実感されたことが信頼関係の構築に繋がり、結果的に治療に対して前向きに積極的に参加していただけたことが、症状改善の一助になったと考える。
- ・ 担当者間で毎回の治療内容、症状変化、生活変化等を共有していたことにより、患者さんの現時点での治療に対する考えを事前に知り治療介入できたことで、患者さんの不安感が軽減され、症状改善へ繋がったと考える。

【反省点】

患者が最も困っている不眠症状に関して、良化傾向にあるものの、
日により不安定であるため、治療経過と共に増悪緩解をこまめに確認整理し、虚実を見極めながら治療を進めていくべきだった。

初診からの症状経過(歩行状態)を動画撮影し、客観的情報として記録
する必要性があったことを反省。

👉患者家族が症状に無理解である故に、家族の関係性が悪化した経緯があり、症状の実態を見てもらうことで家族の患者理解が深まり、早い段階での家族間関係性修復・患者の症状改善へと繋がられた可能性もあったと考えた。

【医師とのコミュニケーション】

報告書でのやり取りを行っており、本事例でも介入にあたり、患者の現状、患者が訪問鍼灸を希望している旨を記載した同意依頼状を主治医宛てに郵送したが、同意書のみのも返送であり、直接的なコミュニケーションは取れていない。

ただ、患者へ医師から以下の連絡があり、患者は安心したとのこと。

「清明院から同意書が来たので作成します、鍼灸は相性もあるが合えばすごく効くから良いと思ったら継続して治療を受けるように。」

👉 間接的ではあるが、**患者が信頼する主治医からの言葉は、スムーズな鍼灸治療介入へと繋がり、必要性和重要性を感じた。**

【参考文献・論文】

文献：新型コロナウイルス感染症の罹患後症状

[新型コロナウイルス感染症の罹患後症状（いわゆる後遺症）に関する Q & A | 厚生労働省](#)

論文：

①COVID罹患直後に新規発症した不眠の症例シリーズ

[COVID-19 に関連する新たな発症不眠症: 症例シリーズ](#)

②COVID-19パンデミック中の母親の不眠症：うつ病および不安との関連

[新型コロナウイルス感染症\(COVID-19\)パンデミック中の母親の不眠症:うつ病および不安との関連 – PMC](#)